

## ZBrushCoreをインストールしよう

さてさて、いよいよ本番のZBrushCoreのダウンロードだ。本ソフトをインストールするまでは、いろいろユーザー登録が必要だったり、ワコムとPixologicのWebサイトを行き来しなければいけなかったりと案外ややこしい。とくにふだん、パソコンをインターネットを見るくらいにしか使っていない人などは意外なほど手間取ることだろう。なのでこちらでもいねいに導入手順を紹介していく。なお、ZBrushCoreの導入にはインターネット環境が必須となるのでご注意ください。

ついにデジタル原型師となる日が……!



10 ▲パソコンを再起動したら、再度CDからインストール画面を呼び出し、メニューのいちばん下、「ワコムクラブ（ユーザ/製品登録）」をクリックする。ちなみに真ん中の「重要な製品情報」は注意事項やライセンス許諾書の内容。いちおう目を通しておこう



11 ▲クリックするとタブレットドライバのインストール後同様にインターネットブラウザが起動して、ワコムのWebサイトへとアクセスされる。この段階でちょっと面食らってしまうかもしれないが、まずは落ち着いて……



12 ▲まずはページ上部のタブメニューから、「製品」をクリックしよう。するとワコムが発売してきた製品がカテゴリーごとに表示されるので、次は「ペンタブレット」の欄にある「Intuos」のリンクをクリックする

ここまでは余裕余裕! ドンと来てほしい!



13 ▲するとやたらカラフルな顔飾りが印象的なお姉さんとともにIntuosシリーズの個別ページへと飛ばされる。次はページのいちばん下部までスクロールすると……



14 ▲Intuosを楽しんでいる女の子とアコムミ調のキャラクターイラストとともに「はじめよう」という見出しとリンクが出てくるので、リンクをクリック



15 ▲これでようやくIntuosシリーズのスタートアップページへとたどり着いた。なお、こちらのページではソフトウェアダウンロードのほかイラスト制作のチュートリアルビデオなどを見ることもできる



16 ▲ページを下部にスクロールすると、ついにZBrushCoreのロゴが発場! 胸が高鳴ってきたら、このロゴはたまたまの画像なのでクリックしても何も起こらない。落ちない「ソフトウェアダウンロードページ」のリンクをクリックしよう

17 ▲ここから先でユーザー登録を行なうため、ワコムの個人情報に関する通知事項が表示される。「こんなものは読み飛ばしてしまえ!」という人も多いだろうが、ちゃんと一読してから「同意する」をクリックするように



18 ▲するとワコムの製品登録ページへジャンプする。こちらのページではユーザー登録と、ソフトウェアのダウンロードを行なう。初回のインストール時は緑の「製品登録」ボタンを押そう



19 ▲すると「SBDキーを入力せよ」との指示が出る。何のことだろうとお思いかもしれないが、じつはこのキーコードは……



20 ▲こちらに! パッケージの、タブレットが入っていた内箱をどかしたところに記載されていたのだ。まさかインストールを終える前に箱を捨ててしまったという人はいないだろうが、その場合は泣きながら回収して欲しい

## intuos3D & ZBrushCore 手とり足取り

2万円ほどでZBrushの簡易版であるZBrushCoreとペンタブレットのセットが手に入るintuos3D。しかし、いきなり導入しようとするとCDを入れてほしいインストール! とはいかず意外と手順を踏む必要がある。このコーナーではインストールの手順を過保護なまでに手取り足取りご紹介しましょう!



タブレットがあればお絵かきもできちゃうし?



タブレットをインストールしよう



7 ▲メニュー画面のいちばん上に表示されている「タブレットのインストール」をクリックすればタブレットを動作させるためのドライバのインストールが開始されるのでじっくりと待つべし。1~2分程度で終わるのでカップ麺を作っている間もいそ



8 ▲ドライバのインストールが終了すると、利き手の設定を行なうことができる。選択に応じてタブレット上部のボタン（エクスペリッド）をいやすように設定してくれるのだ。使いやすいように設定されている設計なのである



9 ▲ドライバのインストールが完了すると、自動でインターネットブラウザが起動してワコムのWebサイトに接続される。指示どおりパソコンを再起動したらタブレットのインストールは完了だ。モプリングはもちろなお絵かきやPCの操作もできちゃうぞ!



4 ▲紙パッケージを開けると、中から黒いCDと注意書き、クイックスタートガイドが顔を出す。クイックスタートガイドは豊富な内容ながら十三ヶ国語に対応しているので、もしあなたが日本語が読めないとしても安心してほしい



5 ▲ここでパソコンの出番だ。内蔵なり外付けなりのディスクドライブにインストールCDを挿入しよう。CDドライブが無いという人は、メーカーWebサイトからもダウンロード可能なのでワコムにアクセスしてドライバをインストールするべし



6 ▲タブレットをパソコンに接続し、CDを読み込むとインストール画面が起動する。ちなみにデフォルトの接続方法はUSBケーブルだが、別途ワイヤレスの接続を購入・取り付ければ無線でタブレットを使用することも可能だ



1 ▲上のメインビジュアルでも使われているドラゴンのCDが割かれたパッケージ（これはZBrushCoreで作られたのだろうか……）はスリーブ状になっているので、まずは紙を取り外す。するとなからクールブラックな化粧箱が!



2 ▲パッケージを開けるとタブレットとタブレットペンが目ええ。タブレットのサイズは中型サイズで、本誌と横幅はほぼ同サイズ。縦の長さがちょっと足りない程度の大ささだ。読み取り部の広さは216×135mmで、作業にも置き場所にも困らないサイズ



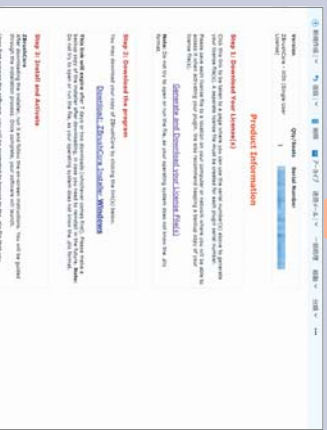
3 ▲形あるものに注目しがちだが、ある意味このパッケージの本番はZBrushCoreだ。タブレットをどかすとさらに紙製のパッケージが顔を出す。向かって右のケース内にはUSB~microUSB・Bの変換ケーブルが入っている



**28** ▲インストールを起動すると言語の選択メニューが登場。ここからZBrushCoreの年々、オリジナルのZBrushは17年2月現在、未だ日本語に対応していないのだ(次バージョンにて対応予定)。日本語をセレクトして「OK」



**25** ▲こちらでタウシロードできるのはソフトウェアそのものではなく、ZBrushCoreの起動に必要なライセンスファイルだ。メールアドレスと、先のpixologicからのメールに書かれていたオリジナルナンバーを入力してタウシロードしておく



うひゃー!  
ついにウツサの  
ZBrushCoreを  
手に入れちゃったし!

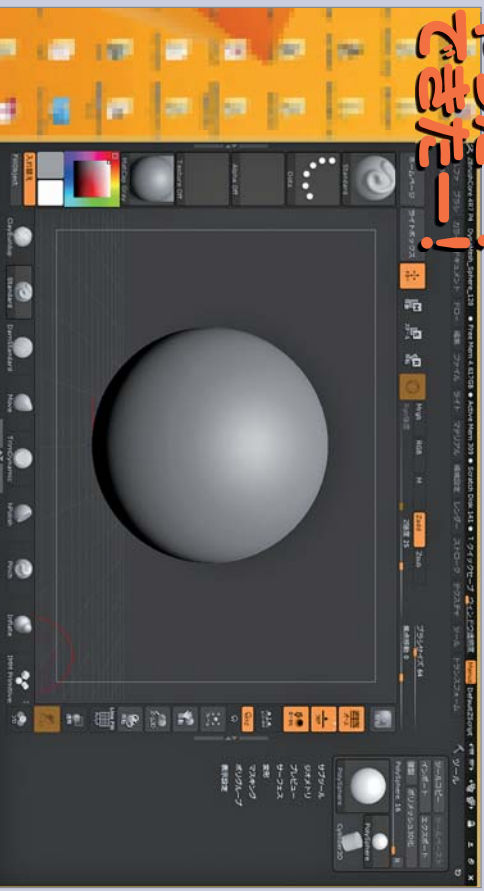
**29** ▲しかる後に、ついにインストールがスタートする。勝利の余韻に浸りつつ、PCIにZBrushCoreが取り込まれていくのを見守ろう! ここまでくれば勝利したも同然だ



よーっしや!  
待ってる  
コンフェイス……  
って、これどら  
使えばいいの……?

●そんなわけでZBrushCore導入の手順は以上! 最後に、ZBrushCoreを起動したら、先にpixologicからダウンロードしておいたライセンスファイルの参照を求められるので、ファイルを読み込んで認証させれば準備完了。ついにあんなに仮想空間での作業部屋を手に入れたのだ……! 具体的な使用方法はP12より指図しよう。インストールお疲れ様でした!

やったー!  
できたー!



**23** ▲ここまで来たらあとひと息! 「Step2」内リンクから、ZBrushCoreをタウシロードしよう! ちなみにこちらのリンクはメールアドレスから7日間の有効。期限をすぎるとタウシロード不可能になってしまうので、手続きは手早く済ませよう

**27** ▲ついにZBrushCoreのインストーラのタウシロードに成功だ! おめでとー! インストーラをタウシロードするべし!

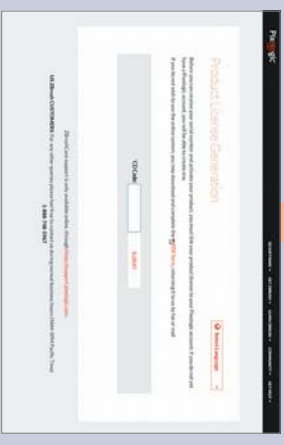
お、余裕だし……  
カスゴこう見えて  
デジタルネイティブ  
だからマジで



**21** ▲SBDキーを入力。意外と余計なところにスペースなどが入ってしまう、認識してくれないことがあるのでちゃんと入力キーを英数字にして頭からキチンと入力すること。正しければ「次へ」のボタンが薄い青に変化し、クリック可能になる

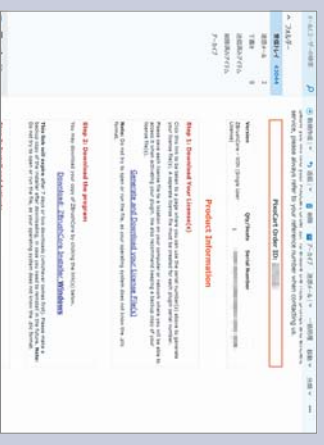
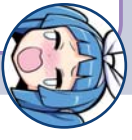


**22** ▲メールアドレスや個人情報、タウシロードのシリアルナンバーなどを入力して、ついに、ついに! ZBrushCoreのソフトウェアタウシロードページへとたどり着いた。ここで表示されている「ライセンスキー」をコピーしておくこと



**23** ▲タウシロードページのリンクをクリックするとpixologicのWebサイトへとジャンプする。こちらでCODの投入を要求されるが、これは先のページで表示された「ライセンスキー」のこと。ペーストして「SUBMIT (送信)」をクリックすればOK

あ〜! 英語のページ  
に飛ばされると途端  
に混乱しちゃうぞ!



**24** ▲するところコマで登録したメールアドレス宛に、pixologicより各種手続き用のメールが自動で送信される。全英語でちよこっとツウウしてしまうが、まずは落ち着いて「Step1」内のリンクをクリックしてみよう